衣のNGO
ふるぎのゆくえをおいかけて
JFSA
ゆたかなくらしをささえる
せかいのまずしさをかんがえる

NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
〒260-0001　千葉市中央区都町 3-14-10
Tel・Fax：043-234-1206
E-mail：jfsa@f3.dion.ne.jp
ホームページ：http://www.jfsa.jpn.org/

会報 42 号　2016 年 12 月

パキスタン派遣報告

ムザヒル校長がキャンパス7を訪れた際、教室に入って授業を始めました。大きな身振り手振りで語りかけるムザヒル校長に子どもたちは引き込まれていました。

・・・・・・・・・派遣報告6～7P

目次

●特集●　JFSA2015年度活動報告
総会報告と2015年度活動報告・・・・2～4p
招日報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・5p
派遣報告「授業の見学をして」・・・・・ 6～7p
第54JFSAコンテナ送り出し報告・・・・・・7p
派遣報告「自分たちの縫製工房を作る」・・8～9p
チャエ ケ サート　・・・・・・・・・・・・・9p
千葉センター便り・・・・・・・・・・・・・10p
東葛センター便り・・・・・・・・・・・・・11p
心根（こころね）フリマ通信　・・・・・・・12p

SA活動報告

88名（本人出席21名、委任状67名）で、提案された議案はすべて承認されました。
予算方針です。

千葉ショップ夏のセール。この時はワンピースを多く出した

毎月恒例の千葉銀座通りでのフリーマーケット

●国内事業（古着などの受入れ、選別、国内での販売）

1. センター業務

（パキスタンへの送り出しと国内販売を計画通り実行するため、古着の受入れ、選別、保管、圧縮・梱包を行なう）

①千葉センター　選別協力団体（6団体）が作業に参加しました。今年度回収分の古着等の一次選別（大まかな種類分け）はすべて終わりました。

②東葛センター　作業場の整理をすすめたことと、人員を確保できたことにより、作業を潤滑に行なうことができました。

2. ショップ販売

①千葉ショップ　セールチラシのポスティング枚数を増やしたこと、女性物の陳列を増やしたことで販売計画は達成できました。15年10月より、ズボンのすそ上げサービス（有料）を始めました。16年1月には新年のセールに合わせて、来店した方におしるこを振る舞いました。

②柏店・古着ショップkapre（カプレ）　販売用のホームページを作成、開設しました。

3. 街商販売（フリーマーケット、その他）

東京都内・千葉県内で開催されたフリーマーケットを中心に出店しました。JFSAショップの案内やイベントの告知、古着回収の案内など、広報活動に繋げることを目的に美浜区内でのイベント等にも出店しました。委託販売もすすめました。

4. 市民活動と連動した様々な企画への参加

団体会員・団体支援メンバーの皆さんには、市民祭りや着物市主催、イベントでの販売などの様々な場面でご協力いただきました。
JR船橋駅北口デッキにて、年2回（11月と4月）に開催し、大勢の来場がありました。千葉センター、東葛センターでそれぞれ年2回チャリティバザールを開催し（12月と6月）、市民団体などの出店参加があり、大勢の方が来場されました。

●アル・カイールアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々と交流

15年11月19日から29日までムザヒル校長とAKBG理事のサジド・ナズィル氏を、16年7月19日から27日までムザヒル校長とAKBG事務局のカユーム氏を招日しました。JFSAの総会やイベントへの参加、協力団体の訪問、会員や理事、選別協力団体との交流を行ないました。

協力団体からは、(株)大地を守る会事務局、NPO法人アーシアン、韓国の生活協同組合のハンサリム連合の役員の方たちが事務局派遣に同行しました。また、東葛センターの元アルバイトスタッフ1名がパキスタンを訪問しました。

2016年2月　韓国の生活協同組合ハンサリム連合の皆さん（左）にキャンパス2について話をするJFSA事務局の田邊（右から2番目）とタスニーム副校長（右）

2015年度JF

2016年11月18日（金）に、JFSA第14回定期総会を行ないました。 出席総数は
総会での議題は大きく分けて3つです。 1. 活動報告、 2. 会計報告、 3. 来年度の活動と

●古着や毛布の回収

2015年度は、回収量130トンを計画しました。実績は113. 6トンで目標には届きませんでしたが、アル・カイール事業グループ（以下、AKBG）への輸出と国内古着販売事業は計画通りに行なうことができました。会員・支援メンバーの方からの送付は、全体の回収量の11. 5%（延べ1452人）になりました。
送り出し総量及び利益については、次のページをご参照ください。

回収期間	回収量	送付人数
2015年9月1日～12月31日	44,865.8 kg	9,687人
2016年1月1日～ 4月30日	31,624.4 kg	7,870人
2016年5月1日～ 8月31日	37,105.4 kg	9,074人
合計	113,595.6 kg	26,631人

●AKBGとの事業連帯

1. 事務局の派遣
①AKBG事業活動の推進②アル・カイールアカデミー教育事業の視察などの目的で事務局をパキスタンに派遣しました。

2. 古着販売事業
JFSAからは4本、グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部（以下、GC）からは3本のコンテナが輸出されました（詳細は4P参照）。パキスタンでの卸売価格の低い品目について、AKBG事務局のカユーム氏とJFSA事務局がタイのバンコク（古着の国際的マーケットがあります。パキスタンからも女性のブラウス等が輸出されている）を訪問し、パキスタン人の古着卸業者の案内でマーケットの調査を行ないました。

3. パキスタンから国内販売用の古着を輸入
パキスタンにはヨーロッパやアメリカなど世界中から古着などが集まっています。JFSAは事務局派遣時に、国内販売用の古着を2回輸入しました。パキスタン物産についてはチャーダル（大判のショール）やカミューズシャルワール（パキスタン民族衣装）の仕入れに取り組みました。

4. 縫製工房
社会福祉法人グリーンコープ、生活クラブ虹の街（千葉）、社会福祉法人グリーンコープワーカーズコレクティブ連合会からオーダーを受けました。
仕事のすすめ方や製品の企画内容をAKBGと話し合い、事務局派遣時には縫製工房で製品の点検と、作業の確認をしました。
新しいスタッフがトレーニングをして技術を高めても、結婚や家族の看病、転居などで仕事をやめてしまう状況が続きました。

写真：アル・カイールアカデミー本校で学ぶ子どもたち

●広報活動

会報を3回発行し、会員支援メンバーに送りました。40号からは、印刷を外注し、紙面を白黒からカラーに変えました。会報や回収案内などの発送費用は寄せられた書き損じはがきや未使用切手で全て賄うことができました。

●各団体による協力

回収協力団体には、回収の呼びかけや活動紹介の広報、直接回収でご協力いただきました。協力団体主催のイベントに参加し、販売や活動報告を行ないました。ムザヒル校長などを招日した際は、交流会を企画していただき、参加しました。

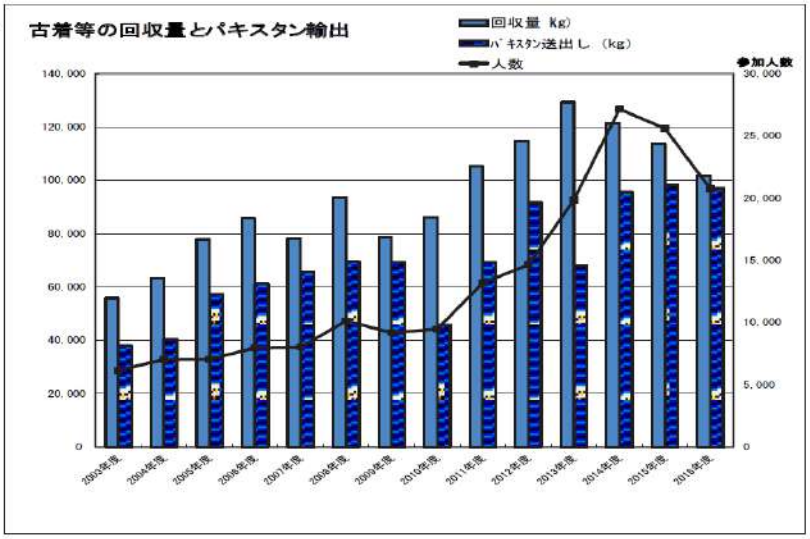
写真：生活クラブ虹の街市原センターでの夏休み企画
"JFSA活動説明会＆古着選別体験"

●ＪＦＳＡ２０１５年度　会員数の増減

会員は減少しましたが、支援メンバーは増えました。継続率は84.7%（2014年度84.8%）でした。支援メンバーは新規入会者が増えました。古着の回収に参加した方には、回収の案内といっしょに入会の呼びかけを郵送しました。

●ＪＦＳＡ古着回収量の推移

	回収量：トン	輸出量：トン
2002年度まで	138.7	186.4
2003年度	55.8	37.9
2004年度	63.3	39.5
2005年度	77.9	57.2
2006年度	85.7	61.2
2007年度	78.3	66.2
2008年度	93.4	69.5
2009年度	78.6	69.0
2010年度	86.3	45.7
2011年度	106.6	69.2
2012年度	114.7	91.6
2013年度	129.4	68.5
2014年度	121.3	95.6
2015年度	113.6	98.3
2016年度	101.7	97.0
合計	1445.3	1152.8



監査報告書

私たち監事は、2016年度（2016年10月1日から2017年9月30日）の当会の事業と活動および決算と会計諸表について、11月1日に監査を実施いたしました。その結果、当会の事業と活動は総会の決定にもとづいて滞りなく遂行され、決算と会計諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2016年度は、古着の回収実績は年度計画の130トンに届きませんでした。特に2回目の回収（2017年１月１日～4月）の回収量が少なく、前後の回収と比べても10トン以上少ない回収量になっています。時期的に回収量が減少する時期ではありますが、送付人数が増えるような対策が必要です。またホームページを見ての参加者、回収量共に前年の70%に減ってしまいました。ホームページのリニューアルが急務です。
4回の輸出は計画どおり達成できましたが、本会活動の基本にかかる事業で３年続けて回収計画が未達成であったことは、今後に課題を残したと言えます。回収計画の策定と実現のための道筋を振り返り、その総括を今年度に生かしていただきたいと思います。
販売事業では、男性物売り場の増設、客層に合う商品仕入れ陳列をおこなうことで売り上げが伸びました。フリーマーケットは前年比90%の売り上げにとどまりました。出店回数の増加、新規イベントの開発等が必要です。
事業全体で３期連続黒字を達成することができたことは、大いに評価されるべきだと思います。
一方で、個人の会員、支援メンバーともに減少しています。会員・支援メンバーは当会の基本的な活動基盤であり、会員の増減は活動支援の輪の広がりのバロメーターでもあります。会員増をめざすには広報活動の強化が必須です。WEBでの日常活動の報告（毎日の動きがわかること）や会員募集等を積極的に行うことが必要です。現在おこなっている紙媒体での広報に加え、積極的なWEB広報を複合的に利用し、ＪＦＳＡの活動理念と実践とを積極的に会員や社会に知らせてくれるよう期待いたします。

ＪＦＳＡの活動の「価値」がさらに共感を得て広がることができるよう、役員、職員、会員の皆さまや団体会員・支援メンバーの皆さま一丸となって、活動計画の達成に邁進いたしましょう。

2017年11月１日
監事　野田克己　水谷靖之

一歩踏み出した、ユース・ウィング

海外事業担当事務局　依知川　守

アル・カイールアカデミー・ユース・ウィング(Youth Wing：青年団)代表のムハマド・サード・シークさんを招日しました（11月16日～21日）。サードさんはムザヒル校長の長男で、現在は国立科学技術大学の2年生で21歳です。

彼が大学の仲間たちとボランティアチームを結成してアル・カイールアカデミー(以下アル・カイール)の活動に協力しているという話を聞き、活動内容を教えてもらうために招日しました。招日期間中は回収協力団体の訪問やJFSAの定期総会に参加しました。

・自分に何ができるのか？

彼が代表を務めるユース・ウィングは大学のサークルとして活動しており、中心的に運営を担っているのは6名。月2回のミーティングで意見を出しあい、活動を進めています。そもそもこの活動を始めた経緯についてサードさんは「私は小さい頃から父の学校を訪問していました。そして何か学校の役に立ちたいとずっと思ってきました。しかしその方法がわからなかったのです。」と教えてくれました。彼が生まれた頃には既にアル・カイールは開校していましたが、父であるムザヒル校長からは学校のために何かをするようには言われなかったそうです。「自分に何ができるのか？」との問いに、サードさんは大学進学後に一歩を踏み出します。

「まず、大学で仲良くなった数名を、アル・カイールに連れて行くことを考えました。しかし私の大学の友人たちはお金持ちの家に育ち、スラム地域に行ったことすらないのです。そこで私は事前に詳しく伝えることはかえって彼らを怖がらせてしまうだけだと考え、最低限の話をした上で行くことにしました。」

その後、サードさんは友人達と繰り返しアル・カイールを訪問し、ムザヒル校長から学校の歴史や理念を教えてもらいました。そして彼は仲間たちとユース・ウィングを立ち上げ、アル・カイールの支援活動を始めました。運営費を集めるために、学校を訪問して感じたことを他の学生や家族に伝え、支援金を募っています。また、他大学の学生にも呼びかけ、交流企画も行なっています。その一つが5日間の「インターンシップ・プログラム」で約30名が参加しました。期間中は学生が授業を行なったり、アル・カイールの生徒達や卒業生達にインタビューを行ない、生徒や家族の暮らしやその背景についても理解を深めました。どちらの企画でも大切にしたのはアル・カイールの生徒達と訪問した学生達が楽しく交流する時間を持つことでした。

・お互いに知らなかった世界

「まずは生まれ育った環境が異なるために、接点を持つことがなかった人同士が、直接出会うことが大切だと思いました。学生達の親の職場では、現場の従業員達に対して酷い物言いをしているかもしれない。それは従業員の暮らしを全く理解せず、考えていないからです。アル・カイールに来て、実際に出会うことでしか理解は深まらないと思うのです。そして私たちのような学生がアル・カイールの子どもたちと関わることで、お互いに知らなかった世界を理解し、何かポジティブな影響を与えあえたらと思っています。」ユース・ウィングはフェイスブックなどのソーシャルネットワーキングサービスも活用し、情報の発信・共有を進めています。また得意な学生が中心となり、動画作成やウェブデザインなども行なっています。

一方でサードさんは「学生たちも薬物依存などの問題があります。」と話しました。学生達とアル・カイールの子ども達の出会いが、お互いの暮らしを理解し、お互いに協力して課題を乗り越える力へと繋がればと願います。

ユース・ウィングのメンバーとミーティングをするサードさん（右奥）

授業の見学をして

国内事業担当事務局　入江　賢治
10月31日（月）～11月10日（木）

Ⅰ．アル・カイールアカデミー教育事業の確認

・先生の研修クラス

アル・カイールアカデミーには今、全体（本校、分校6校、カレッジ）で161人の先生がいます。本校では毎日ムザヒル校長が科目ごとに先生を集めて研修クラスを開いています。授業での具体的な教え方についてだけでなく、パキスタン社会やスラム地域の有り様や歴史、子どもとのコミュニケーションの取り方についての話をしています。

授業の見学をすると、低学年のクラスから元気な声が聞こえてきます。先生の問いかけに子どもたちがリズムよく答えています。ムザヒル校長は「先生に言われて知識を暗記しテストが終われば忘れていく教育でなく、子どもたち自身が興味を持つきっかけを授業の中でつくって、それが探究心として膨らんでいけば、学ぶことへの関心は途切れずに続いていくでしょう。」と言っていました。子どもたちが夢中になって先生とやり取りするようすに、主体性を持った学びの一端を感じました。

・オーファンクラス（母子家庭の子どものためのクラス）

本校にはオーファンクラスがあります。8時から午前の部（学校は午前・午後の二部制）の授業を受けて、給食をとり、午後も学校に残って6時まで過ごします。

「授業が終わって家に帰っても親は働きに出ていて誰もいません。そうすると、子どもたちは環境の悪いところに遊びに行ったり、マフィアに引き込まれるおそれがあります。」とムザヒル校長は言います。また、母親の稼ぎだけでは収入が少ないことや、家の中で喧嘩が起きているなど様々な問題もあるそうです。

「今はオーファンクラスの専門の先生がいません。そのため、子どもたちは授業中に騒いだり帰ってしまう子もいます。子どもの家庭を訪問をしたり、いっしょにスポーツや食事をしながら、子どもの暮らし全体に向き合っていける先生が必要です」とムザヒル校長は言っていました。子どもたちが学び続けられるように支えることは、クラスの中で学ぶ時間だけを切り取って付き合うことでは成し得ません。子ども一人ひとりの暮らし、そして、スラム地域の暮らしに向き合いながら、子どもたちにとって利益となる活動（食糧配布、医療、家庭調査等）をアル・カイールが実践してきていることを改めて感じました。

・キャンパス7の訪問

キャンパス7はアユーブゴートというスラム地域にあります。当初はサイマ先生の自宅を使って授業を行なっていましたが、今は建物を借りて4つの教室があり、100人ぐらいの子どもが通っています。本校から同行したムザヒル校長は、ひとつの教室に入り、授業を始めました。そして生き生きとした表情と大きな声で身振り手振りを交えて、子どもたちに語りかけました。まるで役者に変身し

午後のオーファンクラス
イスラム教の先生のまわりに集まる女の子たち
この日、約20名の生徒が教室で過ごしていた

たムザヒル校長による即興劇の一幕でした。子どもたちはすっかり引き込まれ、授業が終わってからも質問の答えを言いに来ていました。新分校の船出にふさわしい学びの場の原点を見たようなワンシーンで、学ぶ機会を得られた子どもたちを見ていると気持ちが熱くなりました。

Ⅱ．AKBGとの事業活動の推進

JFSA第54回、、GC第12回のコンテナの価格交渉にが立ち会いました。

・様々な理由により影響を受ける古着マーケット

価格交渉は11月3日にニアーズ氏と8日にニアーズ氏、ワリー氏と行ないました。JFSA51回コンテナ（16年1月送り出し）から、卸業者側はマーケットの状況が悪いため以前よりも低い価格でしか買い取ることができないとの主張が続いています。今回はこれまでと同様の理由（隣国イランが古着輸入を禁止、アフガニスタンの輸入関税が更に上がった）に加え、政府が進めるアフガン難民の帰還事業の影響があると言います。両国の往来やパキスタン国内にいるアフガン人への取り締まりがこれまで以上に厳しくなっていて、アフガニスタンから買い付けに来る小売り業者が減っているそうです。ニアーズ氏自身もアフガン人のため、パキスタンでビジネスを続けていけるか、先行きへの不安を口にしていました。また、中国から安くて良い古着が大量に来ているとも言いました。

・卸売価格交渉、未だ継続中

AKBGはJFSA98ルピー、GC84ルピーを提示しましたが、卸業者はそれよりも3～4ルピー低い価格を求めています。AKBGとJFSAとしては、卸業者に対して「現在の状況に対して業者としてどんな努力（対策）をしているのか？」「卸売価格が1ルピー下がれば、約5万ルピー子どもたちの利益が減ることにつながる。そのことを考えてほしい」と伝えました。派遣期間中には妥結に至らず、その後も交渉を継続していますが未だ決定していません（12月10日現在）。コンテナ荷下ろしの参加は、9月に輸入手続きが変更されたために港からのコンテナ搬出に時間がかかり、立ち会うことができませんでした。AKBG事務局カユーム氏が立ち会い、11月12日に無事に荷下ろしが完了した旨の報告がありました。

コンテナ荷下ろし　カユーム氏とアル・カイールのスタッフが参加した

卸売価格交渉　左から卸業者のワリー氏、JFSA事務局入江、ムザヒル校長サードさん、AKBG事務局カユーム氏、AKBG理事イザハル氏、卸業者のニアーズ氏

第54回コンテナ積みこみ送り出し

9月28日（水）ボランティア38名
送り出し量25t166kg

ボランティアの皆さんとコンテナの前で記念撮影

詰めこんだ重さは25t166kg。これまでで2番目に多い量です。なぜこんなに積めこむことができたのか？理由は2つあります。

1つ目は小さなベール（衣類を圧縮梱包したもの）がたくさん入ったからです。1個50kgと重さは同じベールですが、中身によって大きさが異なります。圧縮をしてもかさ張る毛布は大きくなりますが、ズボン類は小さくなります。今回は比較的小さなベールのズボンとジーンズが3t300kg入りました。

2つ目は、多くの方の協力です。5月から8月までの回収期間に皆さまから37t105kgの古着や毛布が寄せられました。それらを選別協力団体の皆さんが1週間に約1.5tのペースで選別。送り出し当日は38名ものボランティアの皆さんと力を合わせて古着や毛布を積みこむことができました。

「自分たちの縫製工房」を作る

協働事業担当事務局　田邉　紀子

10月31日（月）～11月10日（木）

今回の派遣では、縫製工房の今後の計画をいっしょに考えるために、スタッフ全員で話し合いをする時間を持ちました。これまで、スタッフリーダーのサルマさんや、製品の点検を担当するアーディルさん（スタッフの中で唯一の男性）とは、注文した製品の作り方や点検の方法などについてよく話をしています。しかし、他のスタッフが意見を言うことはあまりありませんでした。縫製工房から届いた製品を点検している私は、ミスや納品の遅れなどについていつも怒ることが多く、「わかりました。努力します。」という返事では納得できずにいろいろ聞きます。理由がしっかりわからないと、お互いに納得できる対策が見えてこないからです。そうした問いかけに答えるのはいつも、サルマさん、アーディルさん、AKBG事務局のカユームさんです。

でも、工房ではそれぞれの技術のレベルによって仕事を分担し、全員が協力してひとつの製品を仕上げているので、他のスタッフも意見があるだろうと思います。

・どんな縫製工房になったらよいか

「ミーティングをしましょう」と言ったときには、皆あまり乗り気にはみえませんでした。でも、話をしているうちに、他のスタッフの言葉に身をのりだして聞き入り、「どんな縫製工房になったらよいと思うか皆さんの意見をきかせてください」と問いかけると、自分の思いや意見を話してくれました。

「マネジメントが必要です。マネジメントを学びたいです。」とアーディルさん。彼は、仕事の進み具合や在庫の管理、納品の状況などを確認して記録しています。今回いっしょに行った入江事務局はJFSA千葉センターの作業を担当しています。「JFSAはパキスタンに年4回コンテナで古着を輸出しています。輸出を計画通りに進めるために、スケジュールをたてて実行しています。そして日々、できたこと、やり切れなかったことを確認し、問題があれば会議で話し合います。」と、自分の仕事の進め方を話しました。

「縫っているとわからないところもあります。もっと学ぶことが必要です。」とリズワナさん（4人の子どものお母さんで、いちばん下の7才の男の子はアル・カイールアカデミーに通っています。夫とは離婚しています）。「私もいろんなことを学びたいです。」とナズィアさん（6人の子どものお母さんで、夫も縫製の仕事をしています）。スタッフの中で最年長のナジュマさん（4人の孫がいる、最年長で皆にアンティと呼ばれている）は、高い技術を持ち製品の仕上げもとてもきれいです。ナジュマさんに、あなたはどうやって縫製の技術を身につけたのかときくと、「母親に教えてもらいました。母はとてもよい仕事を

縫製工房でのミーティング

JFSA事務局の入江（左前）がJFSAでの働き方や仕事のすすめ方について話している。
彼の話に耳を傾けているスタッフの（左奥から）アーディルさん、ムナさん、リズワナさん

します。」と言いました。「あなたのお母さんから皆に教えてもらうことはできるでしょうか？」ときくと、「できません。母親は話すことも動くこともできなくなってしまい、寝ているだけです。」と悲しそうな表情を見せました。ほかのスタッフも皆、残念そうでした。

・〝よい仕事〟と〝よい収入〟

「ＪＦＳＡから日本の仕事のオーダーを受けて技術を高めたいと思います。〝よい仕事〟がしたいです。」とリーダーのサルマさん。ほかのスタッフからも「よい仕事をすればプライドが持てます。」「技術が身についたら自分で仕事ができます。」などの意見が出ました。〝よい仕事〟が〝よい収入〟に結びつくこともたいせつです。ムザヒル校長は、「最低でも、家族が1ヶ月暮らしていくためには2万5千ルピーが必要です。でもそれはぎりぎりの暮らしです。」と言っています。

２０１６年は、グリーンコープ福祉ワーカーズ連合会や生活クラブ虹の街からオーダーをいただき、技術を身につけながら〝よい仕事〟と〝よい収入〟を実現するための基盤づくりにつながっています。私は「この縫製工房は特別なところです。どんな工房にしたいか皆で考えて作っていくところです。失敗もいろいろあるでしょうが、注文を出す日本の人たちも皆さんにつきあって応援をしたいと思っています。」と伝えました。

話し合いの途中、午前中の授業が終わったのでしょう、リズワナさんとナズィアさんの子どもがやってきました。二人とも母親のひざに座って少しはにかんだ微笑みを見せました。こんな瞬間があるこの工房の持っている雰囲気も、たいせつにしていきたいところです。

上：6人の子どものお母さんのナズィアさん
右：4人の子どものお母さんのリズワナさん

チャエ ケ サート

立派な店、味のない揚げ物

ウンチィー ドカン ピーキー パクワン

パキスタンの公用語はウルドゥ語です。〝チャエ ケサート〟もウルドゥ語で〝チャエ〟は「甘いミルクティー（チャイ）」、〝ケサート〟は「～と一緒に」という意味です。なので〝チャイと一緒に〟という意味になります。パキスタンでは1日に何杯もチャイを飲みます。そして、賑やかにおしゃべりを楽しみます。

今回のことわざ「ウンチィー ドカン ピーキー パクワン」は直訳すると、「立派な店、味のない揚げ物」です。「見た目は立派だけど、中身が無い」、そう感じた時に使う言葉だそうです。ムザヒルさんから教わりました。

例えばどんな時に使うのか聞くと、「おー！あの立派な人は誰だ？帽子をしっかりかぶり、立派な髭をたくわえ、服も素晴らしく、靴もかっこいい！でも話しかけてみたら、中身が無くてつまらない。そんな時に使うんだよ。」と教えてくれました。こういうことを教えてくれる時、表情豊かに演技してくれます。

パキスタンでは、自分たちも民族衣装の「シャルワール・カミューズ」を着ます。ワイシャツのような生地で、ひざ丈のプルオーバーシャツと、大きなウエストを絞ってはくズボンです。しっかりアイロンをかけて着ますし、なんとなく見た目で人となりがわかります。

そしてムザヒルさんは笑いながら、「だから私たちは古い車に乗るんだ。この車なら強盗に襲われない。」と言います。よく壊れて少々難儀しますが、古着だけでなく、日本の中古車もパキスタンで活躍しています。

ムザヒル校長の車　JFSAの事務局もこの車でアル・カイールアカデミーまで向かう

千葉センターだより

古着の"鮮度"

千葉ショップ担当事務局　大橋　紀子

JFSAのショップでの日常的な仕事は、販売している商品の補充・入れ替えです。あわせて、フリーマーケット、イベント、委託販売用と、それぞれの販売の場に応じた商品準備も行なっています。

鮮度が大事とは、生鮮食品ではよく耳にする言葉ですが、JFSAの販売の場でも同じことが言えます。常連さんは新しく入荷する商品を目当てに来ますが、初めて来店する方も、たくさんある商品の中から、新しく出したものを選んで買っていくということがよくあります。野菜のように、目で見てわかる鮮度はありませんが、何か肌で感じ取っているものがあるのだろうな、おもしろい現象だなといつも思います。

千葉ショップでは2ヶ月に1回程、約1週間のセールを行なっています。その際には毎回、「社会福祉法人つどい　あやめ」より古本を借りて受託販売しています。「あやめ」は障がい者の福祉作業所で、利用者の工賃アップを目指して古本の販売事業(寄付での回収・清掃・販売)を自主事業として行なっています。

JFSAでは以前から、古着以外にも古本や雑貨がお店にあると、お客さんの楽しみも増えるし、古着は買わない人でもJFSAに来てくれるきっかけにできるので、何かできないかな、という話をしていました。自分たちだけでやるよりも、色んな人たちとのつながりの中でやっていけたら良いと考えていたところ、イベントで「あやめ」と知り合ったのが始まりです。 約2年前から始めた古本の受託販売も、だんだんと定着してきました。古着はあまり見ていかない方でも、古本いつ？と、聞いてくる古本の常連さんもできました。

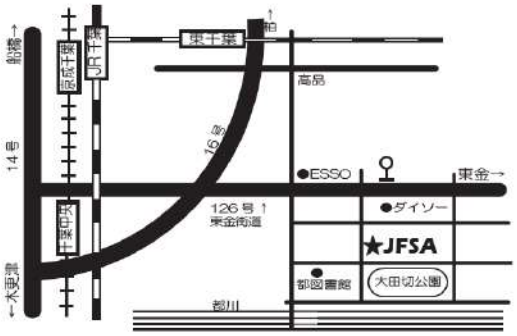
販売する中で分かったことは、古本も、古着と同じで鮮度が大事だということです。新しく入荷したものが多い時と、前回と同じものが多い時とがあり、やはり新しいものが多いときの方がよく売れて、お客さんからの喜びの声も聞こえてきます。楽しみにしている方たちが来続けてくれるためには、鮮度も重要だとわかりました。

「あやめ」とは定期的にミーティングを行ない、古本がもっと売れるにはどうしたらよいか、意見や提案を出し合っています。前回のミーティングでは、「JFSAの古着販売では、一定期間売れていない商品は、どんどん入れ替える事で売り上げや来客に繋がり、事業が成り立っていて、古本でも同じことが言えるのではないか」。そして「JFSAとしても、セールになるべくたくさんの方に来てもらえるように努力をするので、"あやめ"としても、なるべく新しい本を毎回用意できるように努力してもらいたい、そのことがお互いにとってのプラスになるのではないか」と話をしました。その結果、10月のセールでは9日間で222冊販売というこれまでで一番の結果となりました。

意見を出し合い、お互いにプラスになる事業を一緒に作っていくことがこの取り組みの基本です。「あやめ」との関係がモデルとなって、また新たな受託販売の関係が生まれ、さらにいろんな人が来てくれる場をこの先も作っていきたいと思っています。

JFSA 千葉ショップ　OPEN★10:30～19:00　（木曜定休）

☆住所　千葉市中央区都町 3-14-10
☆電話・ファックス　043-234-1206
☆アクセス
★ＪＲ千葉駅東口より１番乗り場のバスに乗り
『都町球場入口』下車。 徒歩１分。
１００円ショップダイソー裏。
★駐車場もあります。お車でもどうぞ。



東葛センターだより

東葛センターのコンテナはいつ来るかな？

古着ショップ kapre（カプレ）担当事務局　田辺　航太郎

「東葛センターのコンテナはいつ来るのかな？」
朝食を取っているとき、アル・カイールアカデミーのムザヒル校長が話しはじめました。

「2018年の3月ごろに送れるように取り組んでいますよ。回収協力が増えるように、祈ってください。」
と、自分は答えました。パキスタン訪問中の会話です。東葛センターの作業環境が整ってきていることや、回収への協力が広がっていることなどを以前からムザヒルさんにも伝えています。現在千葉センターから年間4本のコンテナを送り出していますが、東葛センターも2017年度(17年10月～18年9月)からコンテナを送り出せるように取り組んでいます。そのために回収協力を広げることや、設備や作業環境を整えることが今年度16年10月～17年9月)の課題です。

「kapre(カプレ)の売上が好調なんだってね。どうやって達成したの？」
「昨年度は仕分け作業と店舗への品物を出す作業のタイミングを合わせて、どちらも継続的に行なえるようにしたんですよ。それが良かったようです。」
同じく、朝食中の会話です。東葛センターに併設の店舗『kapre』(カプレ。パキスタンの言葉、ウルドゥ語で「服」)も、昨年度の全体的な作業効率を高める取り組みの中で、衣類の仕分けから店舗への供給、その後の流れまでを整えました。それを1年間継続的に行なえた結果、お客さんが増えて好調となりました。
「アル・カイールはどうですか？」今度は自分から聞きます。

「第6分校の生徒数が増えて、手狭になっているのでどうにかしたい。全体的に先生の給料を上げたいと思っている。」

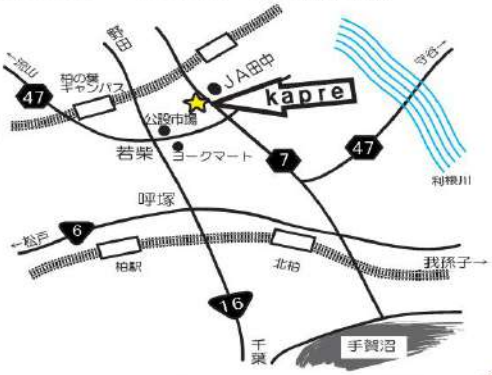
ムザヒルさんからの答えです。第6分校は昨年新たに開校した内の1校です。アル・カイールアカデミーの先生の数は161人です。カラチ市は、人口2000万人を超えているとも言われ、アル・カイールアカデミーの需要は高まっているように思えます。

JFSAは20年以上の活動になりました。これまでアル・カイール事業グループとともに事業を通じて教育活動を支えてきました。東葛センターも、ようやく活動が軌道に乗って来たように思えますが、その速度は充分で無いように思うことがあります。特にパキスタンを訪れている時に感じます。なんとか、いち早く充分だと思えるような体制にしていけるよう取り組んでいきたいと思います。

ムザヒル校長との朝ごはん。この日は食パンとローティー、ジャガイモとひき肉のカレーと目玉焼きが並んだ。

JFSA 古着ショップ kapre（カプレ）　OPEN★10:30～19:00　（木曜定休）

☆住所　柏市大室 176-1
☆電話・ファックス　04-7110-0984
☆ホームページ
http://jfsa.sakura.ne.jp/mysite1/newpage1.html
☆オンラインストア
http://kapreonline.theshop.jp/
☆アクセス
★つくばＥＸ線「柏たなか」駅　徒歩 10 分。
★柏駅西口バス乗り場　５番乗り場 03 系統「柏市立高校」行「大室」バス停から徒歩 1 分。
★駐車場もあります。お車でもどうぞ



心根（こころね）フリマ通信

赤羽公園のお客さん

街商担当事務局　依知川　守

JFSAのフリマ販売はショップの商品入れ替えと連動していて、ショップで販売していた商品(全国の皆さんから寄せられた古着など)を毎週ハイエースや2トントラックに満載して出店しています。そしてその商品は、何度かフリマで販売した後はパキスタンへ輸出されるわけですが、実際に輸出する準備として「種類分け」と「値札やハンガーを外す」作業が必要となります。この日は、赤羽公園のフリマに出店しながらボランティアのTさんと協力して商品の入れ替えと輸出準備の作業を進めました。

赤羽公園フリマといえば、かれこれ20年近く参加しています。ここ数年は主催団体も増え、ほぼ毎月の出店なので、ほとんどのお客さんが顔見知りの常連さんです。毎回缶コーヒーを差し入れしてくださる方、病気で長期入院しながら気晴らしにフリマを楽しみにしておられる方など様々です。また近所にモスクとイスラム教徒向け食材店があるため、バングラデシュ人やインド人も来場します。

ある時、常連の大柄なバングラデシュ人男性に、いつものように「アッサラーム・アレイクム」と挨拶をすると、彼にいつもの笑顔は全くありませんでした。瞳に悲しみを滲ませ「バングラデシュのこと、ごめんなさい」とだけ言いました。自国のテロで日本人が亡くなったことに対しての言葉でした。いまでも彼の表情を覚えています。彼の表情には、日本に暮らす多くのバングラデシュ人、そしてイスラム教徒の悲しみが重なっているように感じました。

フリマで買ってくださる、数え切れないほどのお客さんたち。お名前はほとんど知りませんし、基本的にはたずねることもしません。そのような間柄だからこそ言葉で、そして表情で響きあう思いがあるように思います。

赤羽公園のフリーマーケット
ボランティアのTさん。商品の入れ替え中

この冬イチオシ

☆和衣マルシェちば　1月15日（日）・2月11日（土・祝）（予定）
千葉でリサイクル着物や和装雑貨、リメイク品が買える月に１回のお得なマルシェです。
場所：まる空間（中央区富士見町2-12-4）京成千葉中央駅より徒歩5分・京成&JR千葉より徒歩１０分
※開催時間など詳細はJFSA事務局の依知川まで※

☆赤羽公園　1月22日（日）9時～15時　※雨天時は1月29日（日）に順延※

♪JFSA出店♪　都内・千葉県内のフリーマーケット会場
●池袋西口公園・新宿中央公園・大井競馬場・津田沼公園・船橋競馬場・千葉銀座通りなど
●和衣マルシェちば・フリーマーケットの詳しい情報は、こちらからもご覧いただけます　ホームページ：www.jfsa.jpn.org/fj

JFSAでのボランティアのご案内

★第５５回コンテナ詰みこみ送り出し★
日時：1月18日（水）8時半～15時半頃
場所：ＪＦＳＡ千葉センター（千葉市中央区都町3-14-10）
・力仕事以外もあります！！　・お昼はみんなでパキスタンカレー（カレー作りのボランティアも募集中）

●コンテナ積みこみ作業（年４回）
●イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
●切手やハガキの整理
●会報など発送作業（年３・４回）
●古着の選別体験（グループ対応）
●和服整理ボランティア（毎月第１水曜日 10 時半～）

ボランティアに関する問合せ先 JFSA千葉センター
電話・ＦＡＸ：043-234-1206（木曜定休　9 時～ 19 時半）
メール：jfsa@f3.dion.ne.jp　担当：桑山
＊ボランティアは無償です。
交通費や食費はご自分で負担していただいています。

NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）（9 時～ 19 時半／木曜定休）
メール：jfsa@f3.dion.ne.jp　ホームページ：http://www.jfsa.jpn.org
千葉センター　千葉市中央区都町 3-14-10　Tel・fax：043-234-1206
東葛センター　柏市大室 176-1　Tel・fax：04-7110-0984

★ 会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

JFSA のホームページ
QR コード